

# 教 育

**問** 本市の小・中学校施設の耐震化の状況は。

**答** 本市の小・中学校施設において、非木造の2階建て以上又は床面積200平方メートルを超える建物は49棟あり、そのうち、新耐震基準を満たすものは28棟、耐震化率57・1パーセントです。

耐震基準を満たしていないおそれのある建物について、平成18年度に耐震関係の優先度調査を実施しました。

その結果を踏まえて補強、改修するための第2次診断を平成19年度から3年計画で進め、平成19年度に5棟、平成20年度に6棟の診断を実施、平成21年度は5棟の診断実施を予定しています。

また、地震防災対策特別措置法が一部改正されたことにより、耐震診断の実施とその結果公表が義務化されましたので、市の広報やホームページ、小・中学校の耐震診断結果を公表しました。

**問** 小・中学校施設の耐震化の方針と今後の予定は。

**答** 平成20年度は、耐力調査や実施設計が終了し、平成21年度に改築工事を予定していた豊栄小体育館について、工事開始を前倒し、八日市場小をはじめ市内小学校校舎8棟について耐震補強工

事に向けた事業を開始、八日市場小体育館の改築工事に向けた測量調査等を開始することを計画しています。

年度に実施設計をする建築物の工事と耐震2次診断結果を基にした計画的な耐震化を進めたいと考えています。



▲改築を計画している豊栄小屋内運動場でドッジボールをする子どもたち

力をはぐくむということを目指すことです。また、学習意欲を養うという学力の重要な要素育成を目指すため、授業時間の増加、学習内容の追加、教科書の学習指導要領外の記載の上限廃止等が盛り込まれ、その結果、教科書が厚くなるということがあります。

そこで、小学校では、国語、社会、算数、理科、体育の授業時間が6年間で1割増加、週当たりの授業時間が1・2年生で2時間、3年生から6年生で1時間増加します。

また、学習内容の追加については、例えば、小学校4年生の算数で立方体等を、中学校の理科でイオンや遺伝、進化等を学ぶというように、理数教育の充実のための改訂がなされているほか、言語力の向上を目指し、小学5・6年生で英語活動を導入することなども特徴となっております。

**問** 新学校給食センター建設検討委員会について、これまでの会議の開催状況は。また、どのような意見が出ているのか。

**答** 会議の開催状況については、平成20年度中は2回、10月2日と2月2

日に開催しています。

会議の中では、学校給食の安心・安全、地産地消、手づくり、これまでの成果検証、給食の配送時間、新学校給食センターの建設経費等について、さまざまな意見が交わされています。

**問** 学校給食センターの統合事業の見直しを。

**答** 野栄学校給食センターが昭和51年、八日市場学校給食センターが昭和53年にそれぞれ建設され、両センターとも大変老朽化が進んでおり、機器等の故障が絶えず起こっています。その故障を職員で修理しながら使用している状況ですので、新しい給食センターはどうしても必要です。もし、このまま新給食センターを建設しないでいると、近いうちに給食を中止せざるを得ない状況ですので、ご理解いただきたいと思

**問** 学校給食センターは今までも市で運営するのか。それとも民間委託をするのか。

**答** 民間委託や民間資金等の活用による施設整備の失敗続出、あるいは民間委託は危険であるとのご意見ですが、今後十分に研究していきたいと考えています。

学校給食センターは市による直営か、民間委託かとのご質問ですが、そういったことについては、現在はまだまだたく白紙の状況で、建設検討委員

会でいろいろな意見を聴き始めたところです。

また、民間委託とした場合、地産地消が市の方針であり、給食の安心、安全というのは最も基本的なことです。これらが果たして満たされるかどうかという観点から詳しく精査していく必要があります。

しかし、市の安定的な財政運営も視野に入れなければなりません。それを視野に入れながらおいしい給食ができるか細かく研究し、基本的な案は教育委員会が決定、最終的には議会で決定することになると認識しています。

**問** 給食センターを統合・新設した場合、約4,000食の給食を野栄方式で調理できるのか。



**答** 現在考えている統合給食センターを建設した場合、食中毒等の危険性をなくすことと、食材・食品等の選択を地産地消も含めて考えていくことの2つの視点が必要です。現在の給食センターの体制で考えると、八日市

場・野栄両学校給食センターともに昨年4月から努力して地元産の食材を使用している状況です。でも、両センターを統合しても、地産地消での調理はできると考えています。

**問** 学校給食センター建設検討委員会の会議を市民が傍聴できるように求めたい。

**答** 建設検討委員会の委員は、一般市民です。傍聴者が大勢いる中で、委員が堂々と自分の意見を自由に言えるかどうか心配です。したがって、新しい学校給食センター建設に関して自由な意見を求めるため、会議を公開することが委員に対して圧力になるのではないかと考え、公開については遠慮していただきたいと考えています。

また、会議録の公開について、委員会としてある程度意見がまとまった時点、あるいは途中であっても委員の了解を基に公開しようと考えています。

**問** 統合新設ありきの学校給食センター建設検討委員会の名称の変更を。

**答** 委員会の名称変更について、現在、委員会では、地産地消・安心安全・手づくりで栄養バランスのよいおいしい給食、という観点であり、学校給食に対する基本的な考え方はそのままですので、委員会の名称を変更する必要はないと考えています。

平成21年度は、これらの事業を継続しながら、飯高小学校舎、栄小別館、匠瑳・共興・吉田小の各体育館の耐震2次診断実施を予定しています。平成22年度以降は、国の補助事業等を活用しながら、平成21

**問** 昨年、学習指導要領が改訂されたが、そのポイントは。

**答** 学力向上の観点からの改善点としては、基礎的な知識・技能をしつかりと身に付け、それらを活用し、自ら考え、判断し、表現す